

地域のちから

- いざというとき頼りになるのは
地域みんなのちからです。



自分の命は、自分で守る

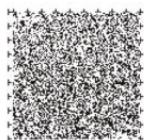
災害による犠牲者を無くすためには、区民一人ひとりが、「いざというとき、最終的に自分の身を守るのは自分自身である」という原点に立ち返ることが重要です。「自分は大丈夫」と思いこんだり、誰かに頼りきりになり、主体的に災害に備える姿勢を失ってははいけません。

家族の命は、家族で守る

自分の命を守ることができれば、家族を助けることができます。また、家族間でいざというときの対応を確認し、普段から備えていることが、家族の命を守ることにつながります。

自分たちのまちは、自分たちで守る

自分の命、家族の命を主体的に守ることを地域住民同士が共有できれば、たとえ個人での対応が困難な場合であっても、それを可能にする大きな力が生まれます。



みんなで決めて、みんなで避難

避難を呼びかける情報があっても、個人では避難をためらってしまいます。地域みんなで逃げる仕組みを考えておくことで、避難の決断がしやすくなります。

日頃から…

避難先や
避難のタイミングを
みんなで決めておく



1人では
避難できない人を
みんなで把握する

そのときがきたら…

みんなで
逃げよう！



みんなで手を取り合い
助け合うことが大切です

近所の人や地域の人
と、声をかけあえる
関係づくりのために
も町会・自治会の活
動に積極的に参加を
しましょう。



例えば…

早めに近所に
声をかけて避難
をする



要配慮者利用施設における避難確保計画の作成

医療施設、社会福祉施設、学校などの要配慮者利用施設は、水害時に利用者の安全を確保するための計画を作成し訓練を実施しましょう。

平成29年6月19日に、水防法の一部を改正する法律が施行されたことに伴い要配慮者利用施設の管理者等に対し、避難確保計画の作成・避難訓練の実施が義務付けられました。



避難の計画を考え
日頃から訓練を行い、水害に備えましょう

